



国コード

- [国番号の設定について \(1 ページ\)](#)
- [国番号の設定の制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [Country Code の設定 \(GUI\) \(3 ページ\)](#)
- [Country Code の設定 \(CLI\) \(4 ページ\)](#)

国番号の設定について

コントローラおよびアクセスポイントは、法的な規制基準の異なるさまざまな国で使用できるように設計されています。アクセスポイント内の無線は、製造時に特定の規制区域に割り当てられています（ヨーロッパの場合にはEなど）。しかし、国番号を使用すると、稼働する特定の国を指定できます（フランスの場合にはFR、スペインの場合にはESなど）。国番号を設定すると、各無線のブロードキャスト周波数帯域、インターフェイス、チャンネル、および送信電力レベルが国別の規制に準拠していることを確認できます。

次に、国番号の設定に関する注意事項を示します。

- 通常、コントローラごとに1つの国番号を設定します。この国番号では、そのコントローラの物理的な場所とそのアクセスポイントが一致している必要があります。ただし、国番号は1つの Cisco WLC に複数設定できます。リリース 8.2 より前は、1つの Cisco WLC に設定できる国番号は最大 20 でした。リリース 8.2 以降は、1つの Cisco WLC に最大 110 の国番号を設定できます。このマルチカントリーサポートにより、1つの Cisco WLC 経由でさまざまな国のアクセスポイントを管理することができます。
- コントローラは、さまざまな規制区域（国）のさまざまなアクセスポイントをサポートしていますが、同一の規制区域については、すべての無線を1つのアクセスポイントに設定する必要があります。たとえば、Cisco 1231 アクセスポイントの無線について、米国 (-A) の規制ドメインに対して 802.11b/g 無線を設定し、イギリス (-E) の規制ドメインに対して 802.11a 無線を設定しないでください。設定した場合、コントローラでアクセスポイントに選択した規制ドメインに応じて、コントローラによりアクセスポイントの無線のどちらか1つだけがオンになります。したがって、アクセスポイントの無線の両方には必ず同じ国番号を設定してください。

製品ごとにサポートされている国番号の完全なリストについては、次の Web サイトを参照してください。

http://tools.cisco.com/cse/prdapp/jsp/externalsearch.do?action=externalsearch&page=EXTERNAL_SEARCH

または

http://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/wireless/access-points/product_data_sheet0900aecd80537b6a.html

- 複数の Country Code 機能を使用している場合、同じ RF グループに join する予定のすべてのコントローラは、同じ国で構成された一連の国々を同じ順序で設定する必要があります。
- 複数の国が設定され、RRM 自動 RF 機能が有効になっている場合、RRM は AP の国番号ごとに許可されたチャンネルの統合を実行することによって取得したチャンネルを割り当てます。AP は、それぞれの PID 国番号に基づいて RRM によってチャンネルが割り当てられます。AP は、それぞれの PID 国番号と一致する法定周波数の使用のみが許可されます。AP の国番号が、配置されている国で合法であることを確認します。
- RF グループリーダーに設定されている国リストによって、メンバーが動作するチャンネルが決定します。このリストは、RF グループメンバーに設定されている国とは無関係です。

日本の国番号について

国番号は、各国で合法的に使用できるチャンネルを定義します。日本で使用できる国番号は、次のとおりです。

- JP：コントローラに join できるのは、-J 無線のみです。
- J2：コントローラに join できるのは、-P 無線のみです。
- J3：WLC に join できるのは、-U、-P、および -Q 無線ですが、-U の周波数を使用します。
- J4：コントローラに join できるのは、2.4G JPQU および 5G PQU です。

日本の規制区域のアクセスポイントでサポートされているチャンネルと電力レベルの一覧については、『[Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points](#)』を参照してください。

国番号の設定の制約事項

- アクセスポイントは、その国向けに設計されているチャンネルでのみ動作できます。



(注) アクセスポイントがすでに規制の電力レベルより高く設定されていたり、手動入力で設定されている場合には、電力レベルはそのアクセスポイントが割り当てられている特定の国によってのみ制限されます。

Country Code の設定 (GUI)

手順

ステップ 1 次の手順で 802.11 ネットワークを無効にします。

- a) **[Wireless]** > **[802.11a/n/ac]** > **[Network]** を選択します。
- b) **[802.11a Network Status]** チェックボックスをオフにします。
- c) **[Apply]** をクリックします。
- d) **[Wireless]** > **[802.11a/n/ac]** > **[Network]** を選択します。
- e) **[802.11b/g Network Status]** チェックボックスをオフにします。
- f) **[Apply]** をクリックします。

ステップ 2 **[Wireless]** > **[Country]** を選択して、**[Country]** ページを開きます。

ステップ 3 アクセスポイントがインストールされている各国のチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにした場合、RRM チャンネルと電力レベルが共通のチャンネルと電力レベルに制限されることを記載したメッセージが表示されます。

ステップ 4 **[OK]** をクリックして続行するか、**[Cancel]** をクリックして操作をキャンセルします。

ステップ 5 **[Apply]** をクリックします。

ステップ 3 で複数の Country Code を選択した場合、各アクセスポイントが国に割り当てられます。

ステップ 6 次の手順で、アクセスポイントごとに選択されたデフォルトの国を表示し、必要に応じて別の国を選択します。

(注) Country Code を設定から削除する場合、削除する国に現在割り当てられているアクセスポイントはリブートし、コントローラに再 join される際に、必要に応じて残りの国のいずれかに再度割り当てられます。

a) 次のいずれかの操作を行います。

- 802.11 ネットワークを無効のままにします。
- 802.11 ネットワークを再度有効にしてから、Country Code を設定しているアクセスポイントのみを無効にします。アクセスポイントを無効にするには、**[Wireless]** > **[Access Points]** > **[All APs]** の順に選択し、目的のアクセスポイントのリンクをクリックして、**[Status]** ドロップダウンリストで **[Disable]** を選択し、**[Apply]** をクリックします。

b) **[Wireless]** > **[Access Points]** > **[All APs]** の順に選択して、**[All APs]** ページを開きます。

c) 目的のアクセスポイントのリンクをクリックします。

d) **[Advanced]** タブを選択して、**[All APs > Details for]** (**[Advanced]**) ページを開きます。

このアクセスポイントのデフォルトの国が **[Country Code]** ドロップダウンリストに表示されます。

- e) アクセスポイントが表示された国以外でインストールされている場合には、ドロップダウンリストから正しい国を選択します。このボックスに記載される Country Code は、アクセスポイントの無線のうち少なくとも1つの無線の規制ドメインに適合します。
- f) [Apply] をクリックします。
- g) コントローラにjoinされたすべてのアクセスポイントを特定の国に割り当てるには、この手順を繰り返します。
- h) ステップ a で無効にしたアクセスポイントを再び有効にします。

ステップ 7 ステップ 6 でアクセスポイントを有効にしなかった場合は、802.11 ネットワークを再度有効にします。

ステップ 8 [Save Configuration] をクリックします。

Country Code の設定 (CLI)

手順

ステップ 1 次のコマンドを入力して、使用可能な Country Code をすべて表示します。

```
show country supported
```

ステップ 2 次のコマンドを入力して、802.11 ネットワークを無効にします。

```
config 802.11a disable network
```

```
config 802.11b disable network
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、アクセスポイントがインストールされた国の Country Code を設定します。

```
config country code1[,code2,code3,...]
```

複数の国番号を入力する場合には、国番号をカンマで区切ります（例：**config country US,CA,MX**）。

ステップ 4 決定を確認するプロンプトが表示されたら、**Y** を入力します。

ステップ 5 次のコマンドを入力して、Country Code の設定を確認します。

```
show country
```

ステップ 6 次のコマンドを入力して、コントローラに設定された Country Code の使用可能なチャネルの一覧を表示します。

```
show country channels
```

ステップ 7 次のコマンドを入力して、変更を保存します。

```
save config
```

ステップ 8 次のコマンドを入力して、アクセスポイントが割り当てられた国を表示します。

特定のアクセス ポイントの概要を表示するには、アクセス ポイント名を指定します。また、アクセス ポイントのフィルタリングを行うときは、ワイルドカード検索を使用できます。

show ap summary

ステップ 9 ステップ 3 で複数の Country Code を入力した場合は、次の手順に従って特定の国への各アクセス ポイントを割り当てます。

a) 次のいずれかの操作を行います。

- 802.11 ネットワークを無効のままにします。
- 802.11 ネットワークを再度有効にしてから、Country Code を設定しているアクセス ポイントのみを無効にします。ネットワークを再び有効にするには、次のコマンドを入力します。

config 802.11 {a | b} enable network

アクセス ポイントを無効にするには、次のコマンドを入力します。

config ap disable ap_name

b) アクセス ポイントを特定の国に割り当てるには、次のコマンドを入力します。

config ap country code {ap_name | all}

選択した Country Code が、アクセス ポイントの無線のうち少なくとも 1 つの無線の規制ドメインに適合していることを確認します。

(注) ネットワークを有効にし、一部のアクセス ポイントを無効にしてから **config ap country code all** コマンドを実行すると、指定した国番号は無効にしたアクセス ポイントでのみ設定されます。他のアクセス ポイントは、すべて無視されます。

c) ステップ a で無効にしたアクセス ポイントを再び有効にするには、次のコマンドを入力します。

config ap enable ap_name

ステップ 10 ステップ 9 で 802.11 ネットワークを再度有効にしなかった場合には、ここで次のコマンドを入力して有効にします。

config 802.11 {a | b} enable network

ステップ 11 次のコマンドを入力して、変更を保存します。

save config

